

1 本年度の学校評価をふりかえって

学校教育目標「かかわり合い 高め合う子どもの育成」のもと、「『や・か・た』の子ども（や：やさしい、か：かしこい、た：たくましい）」の育成を目指して教育活動に取り組んできた。全校縦割りで行う「サイコロ活動」や運動会、港北夏祭り、学習発表会等の行事を「や・か・た」の視点から企画することで、子どもたちのかかわり合いを重視した効果的な活動を計画的に進めることができた。

今年度は研究主題を「主体的にかかわり合い 共に学び合う子どもの育成～説明力を基盤とした主体的・協働的な学びを目指して～」とし、算数科を窓口として実践を進めた。子どもたちが昨年度までに培った説明力を授業の随所で生かしていく話し合い活動「トークタイム」を効果的に活用しながら授業改善を重ね、学習内容をより深めることができた。

家庭や地域との連携を密に行い、保護者や学校評議員の方々のご意見を教育課程の編成に効果的に反映させながら、より充実した教育活動を展開することができた。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	子どもの特性を生かしながら、学校教育目標の具現化にせまる行事等の計画・推進	・行事等の配列や内容を検討し、効果的な運営をすることができたが「やさしい子ども」育成に課題が残った。 ・学校公開時への来校者も多く、保護者アンケートでも肯定的な評価を得ている。	B	・「思いやり」を育てるための共通実践を検討・推進する。 ・各行事のさらなる充実のため、内容や時期の精選を図る。	・多くの子どもにとってより楽しい学校にしてほしい。 ・良い点を認め、改善点は子どもに分かりやすく、納得できるように指導してほしい。
	説明力を基盤とした主体的・協働的な学びの構築	・トークタイムを積極的に取り入れた結果、学び合う授業スタイルが日常化した。 ・学習意欲に関して課題が残る。	B	・子どもたちの学習意欲を向上させるための教材開発や学習展開の工夫改善を継続していく。	・複数の教師による授業、情報機器を活用した授業等、学習方法に工夫が見られる。
	基礎的・基本的学力の定着	・漢字や計算の週テスト、パワーアップ学習、計算ジムなど基礎・基本を定着するための本校独自の方策により、少しずつ効果が現れている。	B	・基礎学力の向上を目指して、補習的時間の確保、個に応じた支援、定期的評価テスト等を効果的に取り入れる。	・わからない所をわからないままにせず、苦手なところが克服できるよう指導してほしい。
生徒指導	児童の実態や行動の変化をとらえた、適切な生徒指導の実践	・学校生活の約束事やルールを守ることの難しい児童がいるが、機会を捉え、規範の大切さを説き、子どもたちの自律を促してきた。人に優しく、思いやりのある心と態度の育成を重要視する必要があると感じられる。	B	・学習・生活両面において児童の実態を的確に把握し、日常的に声掛けをしたり、ふれあいをもったりして、受容と共感に基づく適切な指導や支援を行う。	・表面的な問題行動のみにとらわず、子どもの心にしっかりと寄り添ってほしい。一人一人の良さを認め、有感情や自信がもてるよう指導をお願いしたい。
家庭・地域との連携	絆づくり教育プランを基盤とした家庭・地域との連携の充実	・参観や面談をとおして家庭との共通理解に努め、活動に協力していただいている。 ・地域の人材を教科の学習やクラブ活動に招き、指導をいただいている。 ・PTA、港北地区子どもを守る会、臨港警察署等と連携し、安全指導を進めている。	A	・学校評議員会、学級懇談、アンケート等で広く関係者からご意見をいただき、学校運営に活かして行く。 ・配布物やホームページを活用し、活動内容や成果を広く発信していく。	・地域連携は良好に行われている。地域の団体を授業や学校行事に活用していただけることは大変ありがたい。 ・交通安全、防犯面での子どもの安全について、今後とも連携を図ってほしい。
特別支援教育	個に応じた適切な指導・支援の共通理科と推進	・校内体制の整備、充実を行うと共に、担任、学年主任、サポーター、コーディネーター、が外部機関との連携を図りながら児童理解を深め、支援を進めることができた。	B	・子どもの気持ちに寄り添い、理解や適切な支援ができるように、相談しやすい雰囲気作りや校内研修の充実にも努める。	・全員が共通認識を持ち、サポートしているように伺える。今後も、子どもへの適切な支援を期待する。
小中一貫教育	夢や希望をもち、意欲的に学ぶ児童生徒の育成（土崎中学校、土崎小学校との共同実践）	・学習サポートやゲームで中学生と交流し、中学生へのあこがれの気持ちをもつことができた。 ・「土崎～みらいの夢サミット」では地域の活性化を語り合い、意識を高めることができた。	A	・9年間のスパンでどんな実践を重ねるべきかを3校で話し合い、連携しながら計画的に活動を進めていく。	・不登校問題等の解消のためにも連携を深めながら、小中一貫教育を進めてほしい。